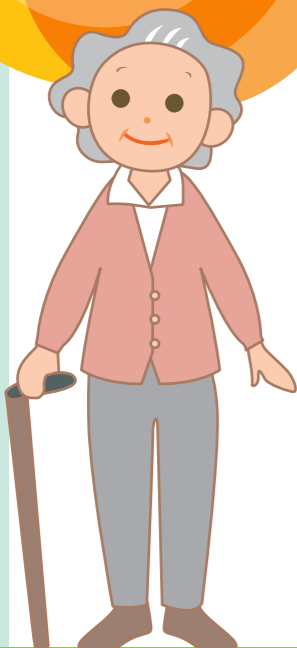


SITUATION.

現在の生活状況 について



内藤 光代さん (仮名)
75 歳

身体状況

要介護度3
脳梗塞による左片麻痺

家族状況

夫と二人暮らし
息子・娘が近郊に居住し、
週末に交互に訪問している

福祉サービス利用状況

デイサービス：週2回
訪問介護：週2回2時間

住まい・福祉用具の状況

平屋の一戸建て
玄関の上がり框や、トイレ、
浴室等に段差あり
手すりの設置はなし
ベッド横にポータブルトイレがあるが、
利用していない

内藤光代さんは2年前、脳梗塞で倒れ後遺症で左側の手足に少し不自由があります。夫の孝之さん(仮名)の介護により自宅で二人で生活しています。歩行はとても不安定のため、杖を利用して歩いていますが、孝之さんが常に見守り、光代さんを支えています。

現在、光代さんは介護保険制度の要介護認定で要介護3の認定を受け、週2回のデイサービスと訪問介護を利用しています。入浴はデイサービスで入り、ホームヘルパーには家事援助サービスを依頼しています。

光代さんの身体の状態は、調子の良いときはベッドから一人で起き上がり、車椅子に一人で乗り移ることができます。着替えや洗面も手助けがあれば自分で行う事が出来ます。

半年前、光代さんがトイレに行こうとして一人で歩行していたときに、トイレの段差で転倒し頭部を打撲したこと、その後も孝之さんと一緒に転倒したこともあって、それ以後は横になっていることが多く、移動するときも車椅子を利用するなど、78歳と高齢な孝之さんの介助する場面が増えてきています。

光代さんが脳梗塞で倒れるまでは、家事等一切したことがなかった孝之さんでしたが、今では洗濯、掃除をきちんとかなし、家事等をする事で自分の介護予防にもなっていると、不満や不安を何一つ言うことなく生活しています。

しかし、近郊の市街でそれぞれ世帯をもって生活をしている息子と娘は、両親、特に家事、介護の全てを担っている父親の事が心配で、1週間交替で週末に訪れ、父親を休ませるようにしています。

光代さんも孝之さんも現在の福祉サービスでちょうど良いと言っていますが、転倒を繰り返さないようにと介護する際に注意をはらっており、心理的に緊張が続いている様子が見られます。

息子たちも両親の気持ちを尊重し、手助けをしていくつもりですが、もっと安心して生活できるよう福祉サービスや住宅改修の検討をしていきたいと考えています。



ADVICE. 安心して生活していくための 専門家からの 助言

1 不安を解消するために、生活環境を整えましょう。

光代さんと孝之さんは、転倒をきっかけに歩くことへの不安が大きくなっているようです。廊下やトイレの適切な位置に手すりの設置を行い、段差を解消する等、住環境が整備されれば転倒の危険性が少なくなりますので、身体状況、住環境をしっかりと把握し、福祉用具の購入や住宅改修を行うことを考えましょう。

また、危険を伴う夜間のトイレ介助については、ポータブルトイレの利用と必要性について理解をいただくことも必要です。

2 介護負担にならないようリハビリを考えましょう。

環境を整えるのとあわせて、横になっている時間が長くなってきているようですので、身体機能の低下が心配されます。デイサービス通所時にリハビリを行う等、介護負担にならないようリハビリを考えていきましょう。

また、不安からか夫への依存心が強くなっていますので、娘さんやホームヘルパーと一緒に料理をしてみたり、おしゃべりして外に散歩に出かける等、楽しみに思える活動を見つけることが、身体と心の一番のリハビリにもなりますので、かわりを増やしてみましょう。

3 介護者のための支援方法を検討していきましょう。

主な介護者である孝之さんも高齢で、一日中、家事・介護と夜間もトイレ介助に起きていることから慢性的な疲労状態が考えられます。息子さん達の手助けはありますが、孝之さんの身体状況等にも気をつけた上で、安全で、できるだけ心身の負担の少ない生活の仕方や、ショートステイ等の各種サービスの適切な利用を検討していきましょう。